

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 日本工学院北海道専門学校への広報支援事業
-------------------	-----------------------------------

区分	番号	名 称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり
小分類	2	開かれた学校づくりの推進
主要な施策	2	地域・家庭との連携促進
事務事業番号	003	事務事業コード 52222003 事業開始年度 昭和 5 7 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名
------	------	------------

部 名	総務部	グループ名	総務 G
-----	-----	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> 日本工学院北海道専門学校の学生募集等の広報支援
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> 日本工学院専門学校での学生募集への広報支援を行う。 ・市役所本庁舎 1 階市民ホールに学校案内パンフレットを設置 ・庁舎内に入学者募集や工学院祭のポスターを掲示 ・学校からの要望等がある場合、随時会議を開き意見交換を行う
成果	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> ・学園都市構想に基づき、誘致した市内唯一の専門学校であるので、その経営の安定のため入学者の増加を図る。 ・登別市民となる学生数の増加を図る。 ・地元の子どものための高等学校卒業後の選択肢を広げる。 ・優秀な技術者を増やす。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffff00; margin: 0;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	入学定員充足率（入学者 / 入学定員） （364 / 570）	%	目標値	70	70	70	70	70
			実績値	64				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円						0
合 計				0	0	0	0	0	0
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	0	0			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		0	0			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？
市の学園都市構想に基づき、積極的な誘致活動を展開したことにより、昭和52年に開校に至ったものであることから、市が支援していくことは必要である。			
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？
少子化が進み、全国的に専門学校の入学充足率が低迷しているなか、目標には達していないが、6割近くの充足率であり、どちらかといえば成果はあがっていると考えている。			
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？向上させることができない理由は何ですか？
学校側と連携し、効果的なPRを考え、学生数増加につなげたい。			
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？削減できない理由は何ですか？
予算はついていない。また、支援にかかる人件費についても最小限の経費に抑えており、これ以上の削減は難しい。			

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	少子化による生徒数の減少もあるが、日本工学院北海道専門学校への入学希望を減少させないためにも必要な支援と考える。
-----------	----------------------	--

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力で推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）